

埼玉県川口支部の原島潔(左より3番目)代表より、「小さな親切」実行章を贈呈。掃除部の皆さんのユニフォームは、各自好きな色を選んでいるというカラフルな“つなぎ”。前列左端が顧問の牧之瀬先生。



“させていただく”気持ちで、 学校や地域をきれいに

全国的にも珍しい「掃除部」がある埼玉県立川口工業高等学校。17年前、同校の牧之瀬貴子先生が一人で化学室の掃除を行っていたところ、生徒数名が手伝ってくれたことがきっかけで誕生しました。校内をもっときれいにしたいと思った生徒たちは、「10人以上部員を集めて『掃除部』にしよう」との発案を実現させ、以来牧之瀬先生が顧問となって活動しています。

現在の部員は23名。月毎にミーティングを行い重点的に掃除する場所を決め、校内だけでなく、月1回の地域清掃も行っています。掃除の仕方は代々先輩から受け継がれていますが、清掃関連会社の方などからプロの技術も定期的に学んでいます。

部員の皆さんに入部した理由を聞くと、「珍しいから」との回答のほか、意外にも「掃除が苦手だから好きになりたかった」と答えた生徒さんが何人かいました。部長の阿部一生さんもその一人。これまで、「部屋を片づけなさい」と親によく注意されていたそうですが、掃除部に入ってから、片づけや整理整頓の習慣が付き、道端に落ちているたばこの吸い殻、空き缶などのごみにも自然と目が行くようになったとか。

顧問の牧之瀬先生は、業者に依頼すれば済む掃除を部活動として認めてくれた学校に感謝を忘れないよう、部員たちには掃除を「してやっている」のではなく、「させていただいている」との意識を持つように、と伝えてきました。この言葉は代々受け継がれ、今では掃除部のスローガンのように。この言葉に思わず、今まで仕事に対して「させていただく」という気持ちで取り組んだことがあったらどうか、と自分を省みてしまいました。

取材したのはトイレ掃除の日。蛇口などは「研磨たわし」でこすってから、マイクロファイバーの布で拭くと水垢がきれいに落ちるそう。なるべく洗剤は使わず、アルカリイオン水で汚れを落とすなど環境にも配慮しています。この部活動をきっかけに、清掃関連の仕事を目指す部員もいるほどですから、掃除には奥深い魅力があるのでしょうか。「させていただく」の姿勢とともに、見習いたいと思います。



最初は抵抗があったというトイレ掃除にも慣れ、ときばきこなします。

(取材・今野那緒子)